

【沖】

早稲田大学の沖でございます。よろしくお願ひ致します。

私の方からご報告をさせていただきますのは、資料にあります受講生調査の結果とそこから見えてまいります課題ということに致します。大きく2つということで、前半の方は、調査の結果そのものは実はお手元にあります冊子の方の場合によっては読んでいただければある程度書いてあるところですので、簡単にさっと飛ばさせていただいて、ちょっと後半に少し力を入れてというか、多少、元のデータも分析しなおして、今後恐らく授業運営、経営等に渡って考えておくべき論点について、少しご紹介するというような形で話を進めさせていただければというふうに思います。

我々のチームで行いましたこの受講生調査は2003年に行いました。実際に大学、あるいは個々の教員で、この一年次導入教育の問題について関心の深い方に、個別にお願い致しまして、受講生に対しまして、授業の中でアンケートを回答していただくという形で、全国で8大学を対象に調査をさせていただいたというものです。このような形になっておりますが、この調査の目的が何であったかといいますと、大体前期4月からの数ヶ月間のこの導入・一年次教育の授業の中で、何を自分達は得たというふうに自己評価しているのかということ、そして、その授業のプログラムあるいは担当している教員をどのように見ているのかということがございます。あるいは授業形態や方法について、それが良かった、あるいはあんまり役に立たなかったという評価もしてもらっております。一番最後に1年生の7月ということで、特に学習の方法であるとか、生活習慣そのものがどのようになっているか。先ほどから出ておりますけれども、この問題を考えるときに、スタディスキル、学習の技術・技法といったものを身につけるということと同時に、大学生としてどのような生活を送るか、あるいは誰もが聖人君子になれという話ではありませんが、留年率の高まり、あるいは引きこもりといわれるような色々な問題が生じてきている中で、どのような対応策が可能なのかということを見る基礎資料というようなことを意図して、この調査をさせていただいたわけです。

調査データそのものにつきまして、簡単に紹介を致します。まず学習スキル、スタディスキルと言われているような領域で、自分達がどれだけ得られたか、あるいは大して得られなかったかという評価を聞きました。

学習スキル関連の自己評価

<ul style="list-style-type: none">• <u>改善された</u>• 受講前評価が低い<ul style="list-style-type: none">– 形式的レポート作成– プレゼンテーション技能• 受講前評価が低くない<ul style="list-style-type: none">– 図書館活用– PC操作– 技能系項目では達成感が高い	<ul style="list-style-type: none">• <u>あまり改善されない</u>• 受講前評価が低い<ul style="list-style-type: none">– <u>根拠ある批判力</u>• 受講前評価が低くない<ul style="list-style-type: none">– 課題解決力– 講義のポイントの要約– 粘り強さ– 論理的スキルの獲得では達成感が低い
---	---

この調査は受講前に自分はこの技術について、力について持っていたかどうかをまず聞いて、その上で授業を受けたあとにどのぐらい付いたか付かなかったかという点を尋ねているという形になっております。ですから受講前の状況と受講後の状況を、それぞれ聞いたということになりますので、実は今このスライドの左側にありますけれども、これは受講後に改善されたというふうに回答しているものが並んでおりますが、例えばその上で、そもそも受講前に自分あんまりこの力なかったなというように形式的に、ちゃんと指定されたとおりにレポートを作れる力であるとか、プレゼンテーションの力というのは、入学前、入学直後ぐらいにはあまりなかったけれども、授業を受けたらつきましたと言ってもらえた項目であります。

その下に書いてありますが、元々はまあ私はある程度こういう力があるけれども、授業を受けたらもうちょっと伸びたな、というふうに回答してくれたのが、図書館の活用方法であるとか、PCの操作といったほとんど技能系の質問で、ちゃんと授業を受

けると身に付くといった類のものが、やっぱり授業を受けたらつきましたね、という回答になっているということかと思えます。

それに対して右側、授業を受けたけどあまり改善されなかった、そもそも最初から低くて、授業を受けても身に付かなかったと言われてしまったのが、根拠ある批判力というような類型で、ちゃんと理屈に基づいてちゃんと批判する力みたいなものがつかなかった。また、ある程度自分は持っているよ、と言ったけれども、授業を受けても付かなかったな、というふうな回答が返ってきているのが、課題解決の力であるとか、講義を受けてそのポイントを要約するまとめる力であるとか、あるいは物事をこういう問題について対応するとき、粘り強く対応する力みたいなものが、この一年次教育のプログラムではつかなかったんだ、というような回答になりました。まあ、スタディスキルの中でも論理的なものを求めている項目で、どうも今のところこのアンケートを対象とした授業だけが原因とは限りませんが、多少達成感が低いという傾向が出てきたという、ややはっきりした傾向が出たかなと思えます。

これは8大学にお尋ねさせていただきましたので、大学によっても多少違いがあります。どこの大学かという話ではなくて、全体としては右肩上がりなのですが、受講前と受講後を見ていただくと、4段階で尋ねていますので、真ん中の2.5というあたりが、平均値になるわけなんですけど、2.5を超えていると、大体平均的に改善されたかなと、少しあるなという方向に上がるわけです。この中で赤い太い線がかなり急角度で右肩で上がっているという形はお気づきになられるかと思えます。このように、大学によっても、非常にこうした力を全体的につけている大学と、まあある程度それなりに、あるいは項目によっては付いたり付かなかったりする大学があるといった傾向が見られます。これはプログラムの問題なのか、受講している学生側の特性によるのか、あるいはそれ以外の要因なのか、それはまだこの段階でははっきりしないわけなんですけれども、特に授業に関する学習スキルに関する要因についてはこのような傾向が見られるかと思えます。実はもう先ほどからの話の中でも多少出ておりますが、大学間の違いという中で、改善があまりない、ノートの取り方もあまり良くなっていな

いとか、あるいはプレゼンテーションもあまり、他の大学に比べると良くなったという評価が低いというのは、実は入学難易度の高い大学というところに集中しがちで、そういうところはどうも学習スキルの習得についてはあまり改善したという回答傾向は出ないのです。

その一方で先ほどの赤い太い線で示している大学など、すべての項目に渡って、大幅に改善しているという大学もあります。授業の最初というより学年の最初から何を学ぶのが、かなり明確に示されている授業になっていることは、これは実際の授業で分かっているのですが、しかも、半期の授業だけではなくて、年間を通じて複数の科目などで計画的にこの一年次の教育で必要な要素を配分し実施している大学ですと、場合によっては全面的に自己評価が改善されている事例も見られます。少なくとも学生がそのように捉えているという大学も出てくるという結果も出てくるということは無視できないことかなと思います。

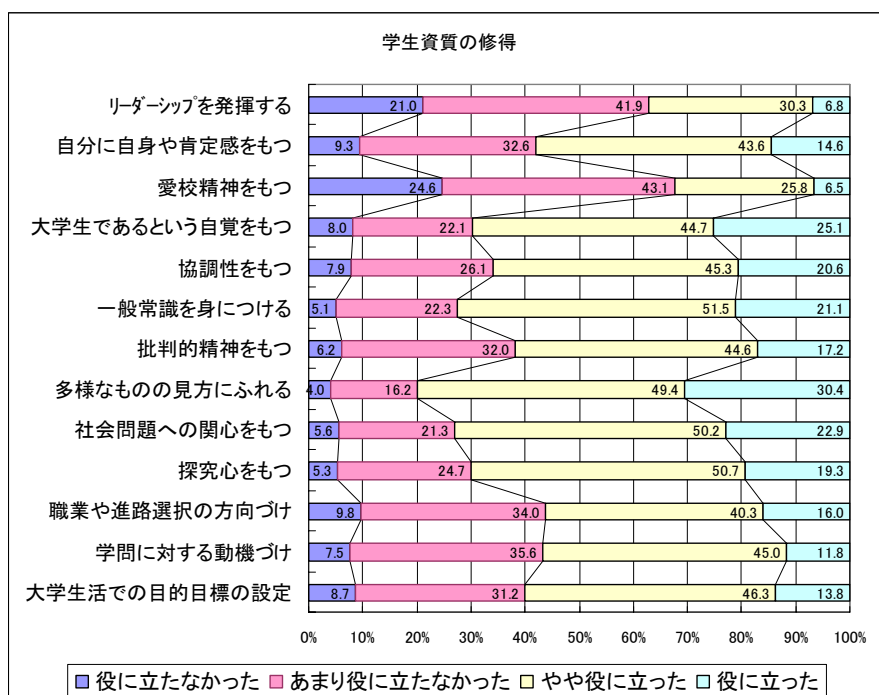
続いて自己管理能力について改善されたか、されていないかということ、先ほどと同じように受講前と受講後ということ尋ねました。「改善された」が、受講前が低かったにも拘らず、改善されたと回答しているものはないということで比較的元々低くなくて、改善されたというのがスケジュール管理、というものが見られます。これは生活に関するものかなと思いますが、結果的にあまり改善されないのです。場合によっては実はマイナスになった大学も若干あるのですが、そもそも低くてなおかつ改善されなかったのが、学習計画を立てることです。計画性という観点から言うと、半年の授業ではなかなか4年間とか1年間、あるいは前期というような一定の期間でどういう勉強をしていくかということを考え、自分で計画を立てるという力量は必ずしもつかなかったということです。そのような力は元々ある程度持っている、という自己評価があるなかで、しかし改善されなかったなというのが、課題の提出期限を守る、積極的態で受講する、休んだときの授業の内容を調べておくという項目です。最後の項目は、調べる人は前から調べているようですが、あまりそういう人が増えないというようなことになっていて、実は授業内容とか教育面に関しては、どうもあんまり

上手くいっているというような評価を、学生から受けられないということになります。しかもこれについては、学習計画を立てるで見ますと、特定の大学の成果がやはり他の大学と比較して顕著に上がっているのです。実は 2.5 のあたりに下がっている大学が 2 つぐらいあり、あまり授業を受けているうちに、3 カ月経つと何となく授業計画とか勉強する計画を立てなくなっちゃったねえという学生が、どうも増えがちで、しかしきちっと指導していると上がるという大学も確かにあるというようなことも色々な側面を考えると無視できないかと思います。

しかもこの内容につきましては、大学間の差異がいくつかの項目で出ているかと思えます。スケジュール管理であるとか、学習計画立案については、大きく改善されているという大学が 2 つぐらいあるのですけれども、どうもスキルに特化して、先ほどの学習スキルをちゃんと身につけられたと、その高い評価を受けている大学では、実はこのスケジュール管理などについても高く改善をしたという自己評価が高くなっていくという傾向が見られます。それに対して、逆に先ほどから出ている履修の成果があまりないというところは、実はもともと習得度についてはある程度高い数字が出ているというところで、それ以上になかなか上がらないという状況です。あるいはここから先は推測になりますけれども、大学の授業でこういうことについて学ぶ必要はないというふうに学生側が考えている節も場合によってはあるのか、あるいは、そもそも学生側がこういう内容について、スケジュール管理もそうですけれども、要求水準がもっと高くて上がらないというふうに考えているかといった点が、入学難易度の高い大学で、どうもこの自己管理能力についてはあまり改善されないという傾向として出てきているかなと思います。

大学全般、あるいはその大学の情報に関する知識についてどのぐらい身に付けているかという質問の回答をみますと、施設の利用方法であるとか、カリキュラムの卒業の要件などについては、ある程度学んだと回答しています。しかし、大学の歴史や伝統については、あんまり学んでいないという結果です。学んでいるところが多いはずなのですが、しかしちゃんと学んだという評価があんまり出てこないのです。聞いて

いないのか、どういう理由か良く分からないのですが、建学の精神や理念も、あまり身につけたというような実感が無いという学生が多くなっています。全般としては大学の理念、大学の歴史、伝統、建学の精神、理念というのが理解があまり進んでいないという結果が出てまいりました。



スライドではちょっと細かくて申し訳ございませんが、学生資質、こういったことについてこの授業が役に立ったか、立たなかったという点をいくつか尋ねております。この後また、文字にしたものをご紹介しますが、左側の方が役に立たなかったという回答で、右側の方の回答が授業が役に立ったという評価です。上の方に2つ突出してあんまり役に立たなかったという項目が見えるかと思います。あるいは真ん中あたりに、かなり役に立ったなという全体として高い評価を受けている項目も並んでいるというのが、このグラフからも多少読みとれるかと思います。

獲得した学生資質の自己評価

<ul style="list-style-type: none">• 自己評価特に高い<ul style="list-style-type: none">– 多様なものの見方– 社会問題への関心 – 一般常識の獲得– 大学生であるという自覚– 探究心	<ul style="list-style-type: none">• 自己評価低い<ul style="list-style-type: none">– リーダーシップの獲得– 愛校心の獲得
--	---

これをもう少し丁寧に読みますと、まず学生自身が、これはとてもこの授業を通じて得られたなあという自己評価が特に高いのが、実は多様なものの見方と社会問題への関心となっており、これらそれらがこの一年次教育のプログラムを受けて得られたという高い評価をいただいています。その下に一般常識の獲得であるとか、大学生であるという自覚あるいは探究心、これも上の2つほどではありませんけれども、随分役に立ったという評価をしてくれている項目になっております。

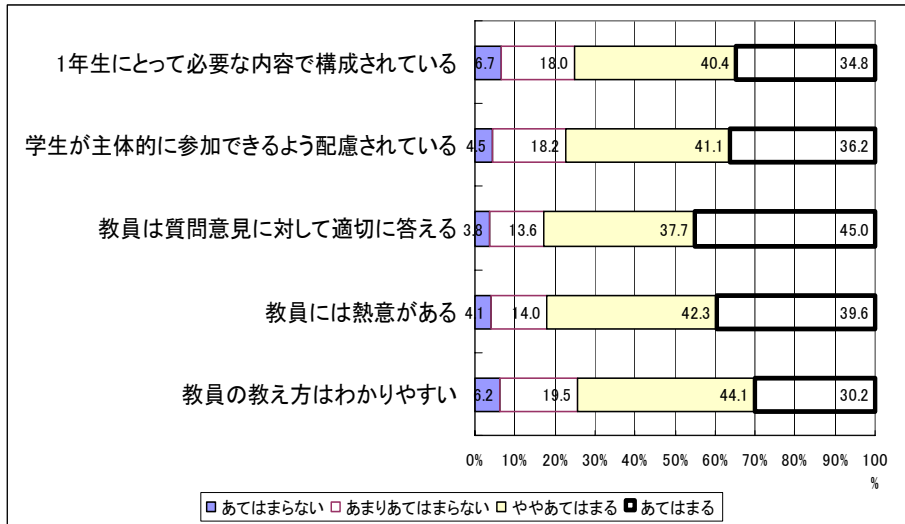
逆に身につけなかったという項目で、上の先ほどのグラフで、上に2つ突出して役に立っておらんということになっておりましたけれども、リーダーシップの獲得と愛校心の獲得、これが今回の調査では、必ずしも有効であったという評価をもらえないというような状況になっているかと思えます。このあたりに今後もし新しいプログラム、あるいは内容を変えていくに当たっての1つのポイントがあるのかもしれないということになるかなと思っております。

この問題につきまして、大学間でどのような違いがあるのかという傾向を簡単にまとめておきます。実はこの多様なものの見方と社会問題への関心の獲得について自己評価が高かった大学は、先ほど学習スキルを得られたという時にはあまり自己評価が

高くないという大学でした。技術面ではあんまり得られたものがなかったけれども、多様なものの見方とか、社会問題への関心は随分得られたというような回答傾向が出ているようです。先ほどからの整理で言えば、入学難易度の高い大学で、特にこの多様なものの見方や社会問題への関心への評価が高いという結果が出ております。

自己評価が低かったものについては、リーダーシップの獲得についてはもう大学間の違いが見られません。どの大学でもどうやら初年次教育の授業では、なかなかリーダーシップなるものを養成することができていないということになるかと思います。愛校心の獲得については、一部の大学だけ突出して高いという結果が出ておりますので、計画的にちゃんとプログラムを組むと、場合によっては育てることができるのかもしれないということが示唆されております。しかも、先ほどあげました項目、デコボコがあったわけですが、すべての項目でまんべんなく高い結果を出している大学というのも実際にはございますので、やはり計画的にかなりきちんとやっておくと、それなりの結果が出てくるということも一方では言えるようです。この大学、初年次教育の実践において非常に有名な大学ですので、それだけやるとちゃんと結果が出てくるという当たり前の調査結果が出てきたかなと思います。

教員・プログラムへの評価

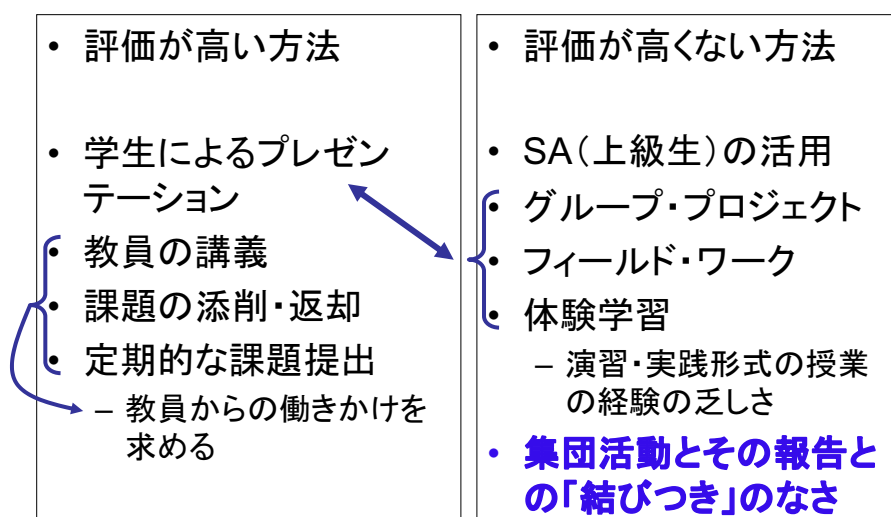


教員、あるいはプログラム全体への評価につきまして、ご紹介致します。これも右側のほうが多いほど、基本的に高い評価、肯定的な評価を貰えているということになりますが、内容面、プログラムの内容であるとか、教員の熱意、教員に対する評価について高い評価になっています。幸いなことにアンケートをさせていただいた授業では、プログラムの全体的な評価、あるいは担当している教員については非常に高い評価を受けているということが分かります。ここで先ほどまで話をしてきた点を繋げて考えると、いくつかあまり学習スキルは身に付かなかったけれども、社会的な広いものの見方ができて、非常に熱心にやってくれている授業だったという評価が、半期の終りの段階で出てきており、万遍なく色々なことを身につけられたので、カリキュラムも良かったし、あるいは教員も熱意を持って質問もちゃんと答えてくれたというような結果がここに出てきているのかなと思います。

もう1つ、大学間の違いというふうに出しておりますけれども、先ほどから難易度の高いという話をしておりますが、そうした大学では実は学習スキル習得の自己評価が低くて、しかし、プログラムや教員に対する評価が高いというようなことが実際にあるのです。しかもかなり高い評価、全体から見ても高い評価となっているので、必

ずしも個別の細かい点でプラスマイナスがある場合もありますけれども、全体的なプログラムについては、学生が比較的ちゃんと評価し、見てくれているところはちゃんと見てくれているということも言えるかもしれないということです。

授業形態・指導方法への評価

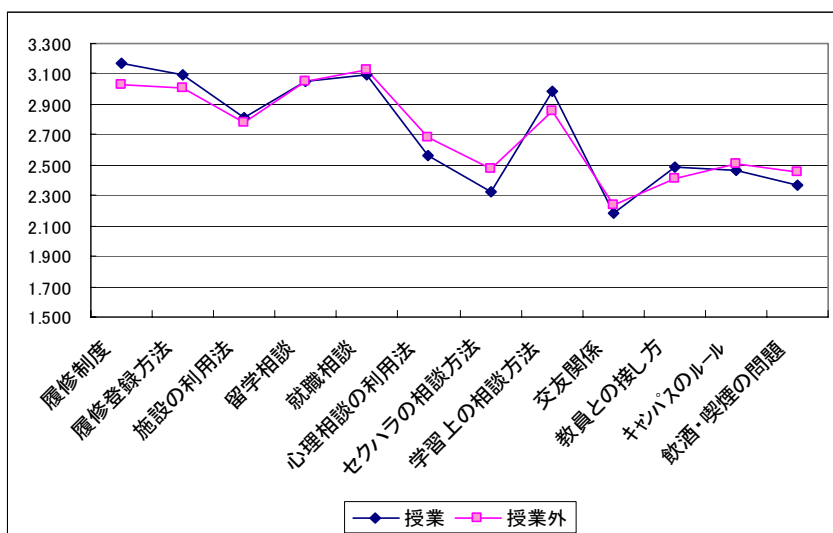


授業形態、指導方法について、学生に尋ねております。実習、実験から体験学習と尋ねております。これも少し整理し直しますと、評価が高かった方法の中でも、非常に高かったのが実は学生によるプレゼンテーションですね。これは私も授業を担当していてつくづく感じます。高校までにこうした授業をやっていないので、人前に立って何か話をするというような経験をしてこない新生が多い中で、そうした体験をするというのは、非常に個々に学生にとっては、なかなかインパクトがあったものになっているかと思えます。

それ以外に教員の講義が良かったとか、課題の添削返却が良かったとか、あるいは定期的に課題を出すのが良かったとかって回答が多くて、どうもやはり働きかけられて、教師に何かしてもらおうということに対して、やはり高い評価が出がちであるということです。それで逆に評価が高くなかったものが、あまり元々それが設定されていない場合が多いのですけれども、スチューデントアシスタント、つまり上級生が

授業の中に活用するものでした。TAの方はそれなりに評価があったんですけども、SAの方はあまり評価がないという感じでした。更に、項目の中にグループプロジェクトであるとか、フィールドワークであるとか、体験学習、要するに集団で何らかの形で調査に行ったりとか、何かをするというようなことについて、実はやったけれども、思ったほど評価が高くなってきていません。ちょっと私にとっても意外な結果なんですけれども、どうも集団活動をしてそれを報告するというのが、なんとなく演習での履修の1つのパターンかなと思うのですが、どうもその集団活動とプレゼンテーションとの間が、どうもまだ何らかの形で溝ができていて、上手く繋がっていないというような状況があるのか、あるいは学生側のニーズとして、こういうところにどうもあまり関心を持っていないというようなことになるのか、まあ解釈は色々ありそうなのですが、問題点というか、特徴としてみる点かと思えます。

指導内容の期待



指導内容として、しかも授業と授業外のどちらで、両方についてこういうことを学びたいかというのを、項目尋ねています。いくつかの傾向があるかと思いますが、全体的に学習に関わる内容につきましては、やはり授業、授業外を問わずちゃんと教えて欲しい、学びたいという評価が好意的な評価になっています。特に授業内容に関する

る相談は、授業の中で学びたいという当たり前の結果ですが、それに対して心理的な相談であるとか、あるいはハラスメントに関する相談は授業外で、何らかの相談方法も含めて何か学ぶ機会が欲しいという傾向が見られますが、実際にはまだあまりこういうことについて学びたいという関心は、全体としては高くありません。やっぱり学習に直接関係することは勉強したいけれど、それ以外のことはあまり視野に入っていないという傾向があります。

また、友人作りなどについて、学校の授業やあるいは大学の中で授業外でも教えて欲しいかという、そんなことは別に学びたくないというのが、全体的な回答傾向ではあります。但しこれは後ほどもう少し丁寧に見ていくと、違った問題点が指摘できるかと思えます。

この点を大学間で見るとそれがはっきりするのですが、実は授業の中で交友関係について学びたいという学生が、相対的に多い大学があり、他と違う回答傾向が出ております。ここは実は学習スキルの改善傾向が良かった、非常によく身につきましたというような回答をしてくれている大学で、実はもっと授業の中で友人関係、交友関係を学びたいと、そういうことを得たいというような傾向が現れています。しかもそれが授業外ではなくて、授業の中で、というふうな回答がより多くなっているといふので、どう解釈していいのかちょっと理解に多少苦しむところもありますけれども、ある種の学生の傾向というものを、少しここから読みとることができるのかもしれない。

入学年度の7月における日常

<ul style="list-style-type: none">• あまり実施されていない活動• 学生同士の研究会に参加する• ボランティア活動をする• 授業がない日も大学に来る• 教科書以外の英語の文献を読む• 雑誌論文などを読む• 授業のコンパには参加する	<ul style="list-style-type: none">• 積極的に実施されている活動• 授業の課題はきちんと提出する• 先生や目上の人には敬語を使う• 約束時間を守る• 試験前に教科書・参考書を読む• 試験前に授業ノートを読む• 授業をアルバイト、サークルより優先する
---	--

これが、今回その調査をした段階で、学生生活の中で実際にやっているもの、あるいはやっていないものということで尋ねている項目です。左側はあまりやっていない項目で、比較的経験しているというのが、右側に並んでおります。英語の文献を読んだりということや授業のコンパに参加することなどは、あまりやりませんという回答が多かったりしますけれども、それに対して右側です。これはあくまで学生の自己評価ですので、本当にそうであるかどうかはまた個別に先生方にご判断いただければ結構なのですけれども、課題を提出するとか、敬語を使うとか、時間を守るとか、そういったことについては、それなりにちゃんとやれているというような評価を学生自身は、自分達にはしているということです。

こうした調査結果なのですが、スキルの獲得については、大学や学生の傾向によってどうもバラつき、デコボコがあるんですけども、プログラムはあるいは教員については、実際に実施されているところ、評価はそれなりに高いということは、今回のこの調査においては明確に出ていたかと思います。つまり教育課程としての一年次教育については、受講生は一定の評価をしてくれているということが、明確に言えるかと思います。

但し、獲得している知識や技能であるとか、あるいは先ほど触れましたけれども、

個人として身に付けている学習スキル、スタディスキルの問題と、集団活動、作業等も含めた集団での行動については、どうもまだギャップがあるかなということになっているということ、あるいは大学間で指導を受けたい内容について出てきている違いをどう読むかということが、1つの論点かと思います。

残りの時間なのですが、もう1つこの調査の中のいくつかの項目で、学生の多様性というものをどう見るか、あるいはどういうタイプの学生がどのような傾向を示すかというのも多少考えなければならないということで、最後に紹介させていただきますのは、入試の勉強量の問題です。

質問項目の中で、いわゆる重量科目、英数国で理科の3教科と日本史世界史について、受験勉強をしたかしなかったかというところについて、点数化したものを3に分けて、受験勉強が多かった層と、中くらいの層と、少なかった層ということで、実際の集団の傾向としては、少ない方はもうほとんどゼロという回答で、受験勉強として勉強したことはない、あるいはほとんどやっていないよ、という回答のグループになります。それに対して、若干の科目。率直に言えば1か2ぐらいなんですけれども、それなりにやっていますという回答傾向のグループと、複数科目、つまり3科目以上で勉強していると回答しているグループにほぼ分かれるのですが、この3グループに分けた上で、今ご紹介した調査がどのようにまた再解釈できるかというものを紹介します。

非常に当たり前の結果が一部出ています。まず、そもそもこの母集団の問題ですが、センター入試を受けている学生人は、大体勉強量の多いグループに入ります。それなりに勉強して受けているということです。あと一般入試をちゃんと受けていると、しっかり勉強したということで点数が上がっていくので、多いというグループに入っています。つまり、実は高校の類型で卒業生が大学へ行く割合がどれぐらいかというところで、かなり顕著な差が出てしまっている可能性があるのです。ですから入学後の問題じゃなくて、入学前の問題が1つ焦点になるかと思います。

一方で、高校時代の成績の自己評価とは、ほとんど回答結果が無関係であるという

ことが分かりました。

受験勉強量の自己評価 していないという回答者の%(設問8の一部)	多	中	少
雑誌論文などを読む	40.9	44.4	54.0
図書館を利用する	9.8	15.4	29.1
辞書を活用する	6.4	7.0	17.7
新聞の政治・経済・国際面を読む	30.1	36.4	39.5
ノートは、見出しの工夫をする	11.5	14.7	21.9
黒板に書かないことでもノートをとる	10.9	13.8	25.0
授業の予習をする	21.8	31.1	42.5
授業の復習をする	17.0	21.7	37.2
授業中以外に教員とコミュニケーションをとる	28.8	30.5	35.7
ボランティア活動をする	63.4	67.4	67.1
クラブ・サークル活動を行う	39.5	44.5	53.0
起床・就寝時間など規則正しい生活	25.1	28.4	34.7
授業のコンパには参加する	43.1	42.6	46.8

* P<0.05, ** P<0.01, *** P<0.001

こうした傾向を踏まえて、特に焦点化できる論点を考えますと、どういうことを生活でしているか、していないかということを探っている、一番最後のほうで紹介したデータが問題になります。ここに出てきている、数値は%ですけれども、私はこういうことをしていませんと回答している割合です。太字にしている5つですね。実は上から2番目の図書館を利用するをみると、受験勉強・入試勉強が多かった人が、していない、図書館使っていないというのが9.8%なのに対して、中間が15.4%、そして少ないというグループが29.1%となります。

真ん中のあたりにノートの見出しの工夫、黒板の書いていないことでもちゃんとノートをとる、あるいは予習復習の問題という点で見ただけだとおり、かなり顕著な差というものが出ております。他の項目でも差はあるんですけども、とりわけここに出てくる項目は、率直に言えるかと思えますけれども、勉強の仕方の問題ですね。スタディスキル、学習のスキルの問題として身に付けさせるべきとしてきましたが、実は入学の前段階での受験勉強量でかなり姿勢にはっきりとした違い、つまり技能の格差があるといえそうなのです。図書館の利用率が低かったり、ノートの取り方、ま

とめ方が身につけていないと。あるいは予習復習もちゃんとやらないという層が生じているということです。

実はこのグループは指導内容について期待は他のグループと全然変わりません。つまり、自分が何が不足しているかということを実感していないのか、あるいは自覚していてもそれを求めないということです。なおかつ、この受験勉強の少ないグループは、実は自己管理能力であるとか、基礎的な学習スキルの受講前の自己評価が非常に低いという結果が出ています。だから実は分かっているのです。自分がこの能力が足りないことは分かっているんだけど、この授業にあまり期待していなくて、ちゃんと身につけていないで、授業が終わった後も、実はノートはとれないし、予習復習もちゃんとやらないと。ないない尽くしがずっと続いてしまうというグループが存在しているということです。

我々は別の研究で、こうしたスタンスの学生を、杉谷先生さんが命名したのですが、ポジティブ学生、ネガティブ学生というような名称で呼んでいます。実際には、ちょっとタイプは違いますけれども、ある特定のグループはもう本当に大学に何も期待しないし、何もしないしというような層が、どうしても出てきてしまうのです。この層に関しては、少なくともこの初年次教育のプログラムでは、まだ上手く働きかけられていないというのが、今回の調査でも少し出てしまったのかなというふうに思います。

実は、先ほど勉強量が多いと真ん中と少ない、と分けたんですが、真ん中の層には、逆に非常に強く働きかけていると。肯定的な評価が非常に多くなるのです。つまり、勉強はしてきたんだけど、あんまりスキルのことについて自覚的ではなかった層なのです。それを授業で受けると、ぐっと勉強の仕方が分かってきて勉強が楽しくなるというグループで、彼らはプログラムへの評価が非常に高く、満足してもらえているようなのです。一方で、元々能力のあるという学生グループは、それについて更に身につけるべきスタディスキルは大したものがないから、授業そのものには大して評価はしていません。元々能力があれば、我々としては別に構わないわけなのですが。

問題は、元々低くて、なおかつ授業に期待していなくて、身にも付いていないとい

うグループがどうしても出てきてしまうことです。しかも自己評価で否定的な評価が強く出るのが、学問に対する動機付けを獲得していないという評価ですね。私はこんなもの身に付けてないという評価が、この受験勉強が少なかった層に出てきてしまうのです。学問に対する動機づけであるとか、探究心、社会問題への関心、先ほど皆が関心が高いと出たはずなのですが、このグループだけ取り上げると、社会について、多様なものの見方について関心がない、あるいは自己評価としては低いという結果になっているということになります。そして、批判的な精神もないし、一般常識を自分では身に付けているとも思わない。だから何か自分から動き出せばいいのですが、そうはしないというような層がどうも出てきてしまうということですね。新しい知識や新しい社会関心などについて、どうも乏しいという結果が出てきてしまうのです。

以上、入試というか、受験勉強の方から少し整理し直したという点でご紹介しました。つまり、これはまとめの段階でも出てくるかと思いますが、こうした一年次教育をやっていくに当たって、誰を対象にしているのか。つまり、今あげたような特定の小さい層に焦点化して何をやれるのかということと、全体として真ん中にある層というのを引き上げて行くという努力をするという形で、場合によっては学生、対象となる学生ごとに内容を変えていくであるとか、何らかのプラス α のケアをしていくといったようなことが、恐らくは、今後必要になるのだろうということが言えてくるのかなと思います。

なおかつ、どのような内容を授業の中に組み込んでいくのかという問題も生じます。今説明したことが事実であるとするならば、本当に同じような学生層が集まっているという大学ならまた別ですけれども、もう1つの授業で学生全員に対して一律に対応するということは恐らく無理なので、そういう現状を踏まえて、多様な学生が集まっている場合に、かなり多様なプログラムというものが用意されないと上手くいかないかもしれないということかもしれません。また、先ほどから出ている生活面の問題というのが、なかなか上手く改善されていないという点から言えば、場合によっては高校の生活指導のような問題というのをもう少しプログラムの中に入れていくという視

点も必要なのかもしれませんが。いずれにしても、先ほどから出ているのは社会への関心、外部の社会とか、新しいものの見方というものに関心の低い層が存在しているということなので、そういう学生に対して、関心意欲を喚起するという方法については、この調査はまだ表面的なもので、そういうプログラムを完全に生み出しているわけではありませんけれども、少なくとも問題が存在していること、そしてどのような対応をしていくかというのが、今後の課題なのではないかということを指摘させていただきます。

以上でございます。ありがとうございました。